

ごあいさつ

黒川 征
(別府大学長)

芸術文化学科が創設30周年を迎えられました。まことに目出度うございます。

この30年は、引きつぐべきものを引きつぎつつ、柔軟に変化に対応してきた歴史であったと思います。創設に当たられた方々、創設後の困難な問題を、ひとつひとつ解決されてきた方々、現在、教育・研究に熱心に取り組んでおられる方々、卒業生・在学生、保護者、地域の方々など多くの皆さんに30周年を迎えたことを感謝するとともに喜びを申しあげます。記念行事として、展覧会や記念誌の出版などが行われます。準備をいただいた教員をはじめとする関係者の方々にも敬意を表します。

この学科が誕生したのは「美学美術史学科」としてであります。本学の芸術文化に対する熱意は強いものであり、昭和38年頃から芸術学部の計画が練られてきたというのですが、検討のすえ、「西日本地区にも造形学科関係の大学や学部・学科は何校か見られるが、単に絵画を描く技術のみでなく、学術の哲学性も重要な意味から、美術理論にも重点を置くために……文学部に置かれた。」(「別府大学の30年」から)とあり、昭和48年4月に文部省から認可を受けるに至ったものです。開設当初の昭和48年度の入学生は2人、昭和49年度、50年度のそれはそれぞれ17人、18人で、昭和51年度に33人であり定員30人を満たすというスタートで、当時の関係者のご苦労が偲ばれます。

さて、美術や音楽等の芸術と呼ばれるものは、人間の本能的欲求によるものと感じています。人類の誕生以来、自分を美術(絵画、彫刻等)というかたちで、あるいは音というかたちで表現するという行為は誰もが生まれながらにして持っている欲求に基づくものであり、それが評価される時代であれ、抑制される時代であれ、芸術が無くなることはないと思います。米国の心理学者のマスローは、人間の欲求について階層があり、第一の水準として生理的欲求を、第二の水準として安全求を、第三の水準として所属と愛情の欲求を、第四の水準として尊重の欲求を、第五の水準として自己実現の欲求を示し、低次の欲求が満たされれば、より高次の欲求が強くなることを論じました。中央教育審議会は「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」答申し、その中で21世紀の教育が目指すものの第一に自己実現を目指す自立した人間の育成を掲げています。芸術の分野がきわめて自己実現に密着しているものであることは否定できません。平成13年12月には、文化芸術振興基本法が議員立法により成立しました。そこでは、「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利である……。」との認識が示され、また、「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」という言葉も取り入れられております。今年の4月からは、芸術文化学科に新たに「マンガ・アニメーションコース」が新設されます。まことに時宜にかなうものと思います。この分野での大学としての教育・研究のモデルとなるよう期待したいと存じます。

海・山・温泉・人間味のある地域という別府大学をとりまくすぐれた環境のもとで、特色ある芸術文化の教育・研究が今後とも一層進展することを祈っております。芸術文化学科の学生を含む学会活動・海外研修等の特色を大切にするとともに、特に関係の深い国文学科、史学科、文化財学科、人間関係学科とも更に連携を深め、文学部全体の教育・研究の厚みを増していただきたいと思います。お願い申し上げます。

芸術文化学科の次の30年の更なるご活躍を祈念し、30周年のお祝いのことばいたします。